

授業改善等に関する報告書（2022年後期）短期大学部

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2022（後期）日本語コミュニケーション学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
アナウンス技術演習	鹿島 千穂	大部分の項目で平均を上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。説明のわかりやすさや声の聞き取りやすさ等の高評価を得た点は、本授業を通してみなさんに身につけてもらいたいスキルでもありました。教員としてデモンストレーションできたよかったですと思います。この結果を踏まえ、次年度以降も工夫して授業を展開していきたいと考えています。
コミュニケーションと心理	大塚 みさ	多くの学生が授業内容に満足してくれたことを大変うれしく思っています。自由記述には、授業内容について関心が深まったという意見のほか、チーム単位での学習スタイルで培われた力についての感想も多く寄せられました。いずれもこちらのねらい通りでしたが、特に後者については受講生のみなさんの順応性が高く、ディスカッションタイムを有効に活用できたことの結果だと感じました。説明や資料等について、「分かりやすい」という回答が多く得られてほっとしています。今後さらに改善を重ねて、全受講生に興味を深めてもらえるよう努力していきます。授業で得た学びを、今後も日常のあらゆるコミュニケーション場面で行かしてもらえたら幸いです。
データ分析入門	河野 康成	最も特筆すべき点は、この科目をさらに学びたいかについて、学びたくないという意見があったことです。理由として、難しいという印象を与えてしまったことが考えられます。入門という科目名ですが、データ分析自体の難易度が高いため、もう少し楽しめる要素を取り入れてみます。説明については、自身で学ばせるスタイルを取っているため、足りないという意見があるのは想定範囲内であるものの、工夫が必要と感じています。ヒントを与えつつ自身で乗り越えるような方法を考案してみます。授業中に受講生からもらったコメント「これまで受けた短大の授業の中で最も大変だった。」ということがこの授業を反映していますが、レベルは落とさずに、前向きに進められるように色々考えてみます。
プレゼンテーション入門	鹿島 千穂	受講生が5人という、少ない人数の授業でした。アンケートの回答が3名からしか得られなかったため全体像は見えませんが、回答した学生が授業内容に満足してくれていることを嬉しく思います。この結果を踏まえ、次年度以降も内容をブラッシュアップしていきたいと思います。
ライティングスキルb	鹿島 千穂	受講生が3人という、大変少ない人数の授業でした。アンケートの回答が1名からしか得られなかったため全体像は見えませんが、回答した学生が授業内容に満足してくれていることを嬉しく思います。この結果を踏まえ、次年度以降も内容をブラッシュアップしていきたいと思います。
基礎ゼミ ①	大塚 みさ	この科目は初年次教育の大切な授業ですので、「受講を通して自分の成長が実感できた」という意見が多く得られたことをうれしく思います。また過当たりの予習復習時間は平均の倍近くに及び、みなさんの課題への真剣な取り組みの様子が伝わってきました。自由記述欄には、論理的思考力、レポートの書き方、発表のしかたが身についたという意見が多く寄せられました。一方、成績の自己評価が控え目でしたので、次年度以降は受講生が自信を持てる工夫をして行きたいと思います。
基礎ゼミ ②	鹿島 千穂	大部分の項目で平均を上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。また、予習復習時間が平均を上回っていたことから、レポート執筆や発表に対してみなさんが精一杯取り組んだことが見てとれます。この結果を踏まえ、次年度以降も工夫して授業を展開していきたいと考えています。
基礎ゼミ ③	高瀬 真理子	必修授業で、全クラスだいたい進捗が決まっているので、その点では、楽しみの少ない科目ですが、要約ドリルやSPI等の基礎学力を養うには、たいへん重要な科目です。卒業研究に接続しているので、きちんとステップアップしましょう。
基礎ゼミ ④	西脇 智子	多くの項目で平均を上回り、授業に対する自己評価が高かったこと、履修生ご自身が成長を実感できたことは、大変嬉しく励みになりました。毎年、内容は変化していくこととなりますが、説明のわかりやすさなど、高評価を得た部分について、次年度以降も工夫して取り組んで行ければと思います。
自己表現法 ①	大塚 みさ	全回答者が「受講を通して成長を実感できた」と答えてくれた点が大変うれしく感じられました。自由記述欄には、自己分析や就職活動への意識が持ったことを挙げる声が多く寄せられました。一方、成績に関する自己評価は控え目でした。2度の自己アピール演習を通してより自信を持てるように次年度は工夫を凝らしたいと思います。
自己表現法 ②	鹿島 千穂	大部分の項目で平均を大きく上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。しかし、予習復習時間が短めなのが気になりました。毎回の小テスト以外にも、事後学修で行うべきことを明確に指示する等、次年度以降工夫して授業を展開していきたいと考えています。

【2022（後期）日本語コミュニケーション学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
自己表現法 (③)	高瀬 真理子	割合、いい結果となりました。それぞれに将来について、あれこれ思い悩みながら自己を見つめ直して、履歴書やエントリーシートを書くので、ひとりひとりにより沿わなければならない、あれこれお節介しましたが、実際は、なかなか難しかったです。
自己表現法 (④)	西脇 智子	多くの項目で平均を上回り、授業に対する自己評価が高かったこと、成長を実感できたことは、新しい取り組みとして、大変励みになりました。毎年、内容は変化していくこととなりますが、説明の分かりやすさなど、高評価を得た部分について、次年度以降も工夫して取り組んで行ければと思います。
女性文学	高瀬 真理子	女性文学への関心は高いけれど、円地文学は難しいといったところでしょうか。円地文学には、老いに向き合いつつあがき、夫によって女性の夢が破れているものが多いけれど、学生諸師が将来、この円地文学の世界を人生振り返りの材料にすることは、なかなかの強みをもたらすと思っています。
卒業研究 b (①)	高瀬 真理子	学生によってやりたいことがいろいろなので、苦労しますが、まあ、今年は大きなグループに分けて、少しは、相談し合えるようになったかなと思います。ゼミ運営は、それぞれのキャラクターが影響することもありますので、雰囲気よく過ごせることが何よりだと思います。熱心に取り組んでいて、良かったと思います。苦しくても、文章に書ききること成長があります。
卒業研究 b (②-1)	大塚 みさ	アンケートへのご回答、ありがとうございます。多くの回答者が「自分の成長が実感できた」と感じている点を大変うれしく思いました。自由記述欄には具体的に「計画性が身についた」「計画性の重要性がわかった」という意見が多く寄せられ、自己管理能力の向上ぶりが感じられました。また、自分の好きなことを研究できたこと、クラスメートから意見をもらえたことがよかったというゼミのスタイルに関する意見もあり、大変参考になりました。卒業研究を通して身につけた自己管理能力は、卒業後もさまざまな場面で生かし、さらに伸ばしていってほしいと思います。
卒業研究 b (②-2)	大塚 みさ	全回答者が「自分の成長が実感できた」と感じている点を大変うれしく思いました。自由記述欄には具体的に課題発見力、文章力の向上を実感したという意見が多く得られ、またそれによって自信が持てたという意見も寄せられました。週あたりの予習復習時間は平均値の倍以上であったことから、こうした成長実感はみなさんの努力の賜物だと感じています。卒業研究を通して身につけた力を、卒業後もさらにのばして行ってください。
卒業研究 b (③)	鹿島 千穂	大部分の項目で平均を上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。特に、週あたりの予習復習時間が全体平均を大幅に上回っていたことから、みなさんが卒業研究レポートの執筆や中間発表に力を注いだことがみてとれます。研究を通して得た力を、今後の社会人生活や学生生活で活かしていってください。
卒業研究 b (④)	橋詰 秋子	評価がでており、成長を実感した人が多かったことを嬉しく思います。次年度以降も工夫して取り組んでいきます。
点字の世界	西脇 智子	多くの項目で平均を上回り、授業に対する自己評価が高かったこと、成長を実感できたことは、新しい取り組みとして、大変励みになりました。毎年、内容は変化していくこととなりますが、説明の分かりやすさなど、高評価を得た部分について、次年度以降も工夫して取り組んで行ければと思います。
日本語コミュニケーション入門 (①②)	西脇 智子	多くの項目で平均を上回ることができるように取り組み方を検討したいと思います。毎年、内容は変化していくこととなりますが、説明の分かりやすさなど次年度以降も工夫して取り組んで行ければと思います。
日本語コミュニケーション入門 (③④)	西脇 智子	多くの項目で平均を上回り、授業に対する自己評価が高かったこと、成長を実感できたことは、新しい取り組みとして、大変嬉しく励みになりました。毎年、内容は変化していくこととなりますが、説明の分かりやすさなど、高評価を得た部分について、次年度以降も工夫して取り組んで行ければと思います。
日本語学入門 b	大塚 みさ	この科目は「日本語学」の「入門」的内容でしたので「この科目(系・分野)をさらに学びたいと思いませんか?」で「(とてもよく/どちらかと言えば)あてはまる」が95%以上であったことを大変うれしく思いました。日本語を客観的に見るために英語と比較する場面もありましたが、それを好意的に受け止める意見が多数寄せられたこと、前期の「a」よりも難易度を感じた分やりがいを感じてくれたという意見もあり、みなさんの知的好奇心に感心しました。次年度は説明のしかたをさらに工夫して、より理解を深めやすくしていきたいと思えます。

【2022（後期）日本語コミュニケーション学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
日本文学の歴史 d 現代	高瀬 真理子	今回、人数が少なかったため、最初は資料を画面に映し出していましたが、後からは、手許で資料を見てもらうように配布しました。資料の量が膨れ上がるのには、少しはらはらしました。次年度からオンデマンドになるので、益々工夫が必要です。